抱ぃ 若ゥ 雄ゥ 津ゥ i 擁ё き 大ゥ 軽ゥ か 情; 想፥ れ 懐ぇ 想፥ も て今野心培ふ は ひを北る 海み 北溟の の 渦き 手と 潮 に馳は 自然に わ け 計する Ć

力 ハシヤ Ó 白は 花な 散ち り敷く

十の群は声なく去りぬい。場添ひの野路逍遙ひゆ 0 月灰の 野路逍遙ひゆ か に浮ぶ

Ú ば

始し狩り 0 の 0 うき朝 割 大も平森り野 朗こ 声え の熟睡を破る 静寂に に は 緑が夏な かも小暗し おいます 徹ま ŋ れて

タッ ベ

我が行くできればいる。 無む 飄なり に こうひ マ の風声ない なる の静寂で 、孤影よ霜! 利く 虚 <u>呼</u>空を截りて 林ル に た満て に凍りぬ に沈潜 ŋ み

山ぱんれい 白るがね あ あ 壮麗い 奥ぶの 六華荘 に我が胸戦傈ふ ζ 0) 彷徨が 樹水 厳な n に 小の森よ 行けば 咲き Ź

え 血 _ち

潮ぉ

の三年

Ó

契 シ り

豊の穣り 北き 溟* ポ プ /ラの高梢/ の 秋き σ 讃ん 歌か でを 奏 で

生き

0) 歓きで の が 蒼穹紺碧 日我が胸は さやかに揺 帰懐に 充溢 に透 ぐ

Ŧi.

大陸な 全ぜんし 飛かった。 湧きて若き熱血液 がる荒鷲想へ! に で硝煙昏冥し ば

雄らしん れ 戦な 塵が 東語 重ぁ を閉と 鎖ぎ

意^いい 気^{*} ざ 寮* 先んじん いざ寮友 Ó 0 犠に絢ゆ 及どちよ永久は報性の火柱廻ぬ 夢ぁ 残さ ĥ . る . 原も たに謳っ りて 浴林 歌た Ë は 6

階堂 橋 孝 寛 君 君 作 作

曲 歌